

2 初めてはじの痛悔つうかい (続き)

さて、痛悔つうかいであなたは私わたしたちの父ちちなる神かみさま様に帰かえります。もしあなたが神かみさま様たいに対し、あるいは他人たにんに対し罪つみを犯おかしたことを本ほん当とうに申もうし訳わけないと思おもうならば、神かみさま様たいはあなたをその愛あいで受け入れてくださるでしょう。神かみさま様たいは新しい生命いのちの糧かてをあなたが御ご聖せい体たいを受けうける時とき授まけて下くださいます。その結果けつ果か、あなたは、神かみさま様たいと神かみの国くにで永遠えいに生いきる事ができるのです。あとの数すうページに、あなたがどんなに善よい行よいをしたか、または悪わるい行わるいをしたかを考かんえてみる助たすけとなるよう質しつもん問もんがあります。痛悔つうかいの前まえに唱となえなければならぬ祈きとう禱ぼん文ぶんと、御ご聖せい体たいを受けうける前まえと後あととに唱となえなければならぬ祈きとう禱ぼん文ぶんが載のせてあります。また痛悔つうかいのために司し祭さいの前まえに出でる時とき、どうしたら良よいかということも正せい確かくに書かかれています。一番いちばん大切たいせつなことは、痛悔つうかいに備そなえて自分じぶんひとり、あるいは両親りょうしんと十分じゅうぶんな時間じかんをかけて色いろ々いろと話はなし合あうように努つとめることです。そうすればあなたは、楽らくに神かみさま様たいと司し祭さいにどんな行よいをしたかを話はなすことができるでしょう。そうすれば今こん度は、司し祭さいもあなたが神かみの善よい子ことしてもつと善よい生せい活かつをするためのより良よい手て助たすけができるでしょう。

3 痛悔つうかい機密きみつと聖せい体たい機密きみつに与あずかするための準じゆん備びの手順てじゆん

(1) 今いままでにどんな行よいをしたか、どんな悪わるいことをしたか、どうすればもつと立り派ぱになれるかを考かんえてみなさい。どんなふうふうに神かみさま様たいや家か族ぞくや友ゆう人じんに背そむいてしまったかを思おもい出だす助たすけとなる、検けん討とうのための質しつもん問もん表ひょうを作りつくなさい。表ひょうを使うつかだけではいけません。自分じぶん自じ身しんの生せい活かつをよく見みつめて、あなたが罪つみを犯おかしたかもしれない別べつのやり方かたも検けん討とうしてみましよう。

(2) 痛悔つうかい機密きみつの祈きとう禱ぼん文ぶんを自じ宅たくかまたは教きょう会かいで読よみなさい。

(3) 教きょう会かいに着ついたら先まず祈いのり、それから司し祭さいがあなたの痛悔つうかいを聞きくために出でてくるのを待まちなさい。司し祭さいは聖せい福ふく音いん経きょうと十字架じゅうじかを乗のせてある經案アナロイの傍そばに立たちます。司し祭さいの所ところに行いき、聖せい福ふく音いん経きょうと十字架じゅうじかに接せつ吻ぶんしなさい。司し祭さいは言こと葉は少すくな、あなたに罪つみを痛悔つうかいするようにと言いいます。あなたが不ふ従じゆう順じゆんであつたり、悪わるい行よいをしたことを思おもい出だすように努つとめなさい。痛悔つうかいが終おわれば司し祭さいはあなたに話はなしかけて、あなたがどうすればもつと善よい生せい活かつができるかを考かんえる手て伝でんいをしてくれるでしょう。

(4) あなたがもう痛悔することがなくなつて神様にお赦しを願うならば、経案の前に跪きなさい。司祭はあなたの頭の上に領帯を掛け、罪が赦されるように祈ります。司祭の赦罪の祈祷が終わつてあなたの頭の上に祝福をしたら、あなたは立つて十字架を書いてもう一度聖福音經と十字架に接吻しなさい。司祭の祝福を受けてから、聖堂内の自分の場所に戻つていいのです。

(5) それから御聖体を受ける前に、領聖前の祝文を読んでおきなさい(自宅でも良い)。あなたは前夜から禁食し、家族や友人の全てと仲良くしていなければなりません。この間にあなたは司祭から受けた助言を思い出して、どうすればもっと善い生活をする事ができるかを考えなさい。

(6) 聖体礼儀に与り、神様がこの機密によつて与えてくださる新しい生命の賜物を受けた後に、感謝の祝文を少なくとも一は読みなさい。一番大切なことは、今すぐに神の子の一人として立派な生活を送る努力を始めることです。

4 痛悔に行く前に考えておかなければいけない問題

私たちが痛悔に行く数日前か遅くとも前晩に、私たちは神様に

対して、家族に対して、自分自身に対してどう振舞つたかをゆつくり注意深く考えてみなければなりません。自分の生活を見つめながら、自分が罪を犯した仕方やどんなに不従順であつたか、自分自身を神様から、また他人から引き離すようなことをやってきたかを心に留めなさい。あなたが自分に尋ねてみるのに良い質問をいくつか出してみます。あなたの振舞いが良かったか悪かったか検討してみなさい。

- (1) 神様に対して私はどんな行いをしたか。
 - 毎日、神様に向かって祈祷したか。
 - 神様に感謝したか。―朝に、食事の時に、夕方に、あるいは神様が私にどんなに良くしてくださつたかを思い出す度毎に。
 - 神様の名をみだりに使うことはなかつたか。
 - 本当に神様を愛し、神様が私に望まれるような生き方をしようとしたか。それとも私はすぐ神様を忘れ、神様の誠めに従うことを忘れるか。

(続く)